

昭和38年7月20日
編集人 兼 発行所
田縣立龍代高等学校新聞部
印刷所 大謨堂印刷所

[illegible]

における基礎的な生活の場、クラブ活動・生徒会活動で高校生の生き方など共同

の時間でも無視にされたような感じがする。しかし、このようにである。しかし、このようにである。

よりも歓迎できる面もあるが、受験勉強か、生徒会かこんな

た二生自人をして
 生てきた先輩の経験に学ぶ道
 年のもよであるが、生徒会を
 実が大事なと考へるのは一面
 つに困らざるの欠陥がある
 だという認識が不足だ。いす
 げや、無用論も少くめて生徒
 が實踐的にも思想的にも深ま

欲しい生徒会論

受験生活に言つて異がよ、使つ
 る。世間では「受験生活」の
 え成色を決めてしまふ。また
 た、受験生にとってはもうなほ
 入報をもつてゐる、物事に対し
 能的に対処するか、受動的に
 処置するかで、また意欲の有
 が興へて来事を考へてもら
 たい」と話される。
 いずれにせよ、多くの人が感じ
 「灰色の青春」これはいかにか
 も横すたる機関としてホム・ル
 、生徒会宙があるのではな
 ないか。

本年度予算案

野球(硬)	204,750	(+39,700)
野球(軟)	41,760	(+2,670)
庭球	42,000	(+6,160)
籠球	28,000	(+6,295)
排球	62,960	(+5,770)
体操	33,560	(+5,450)
陸上	21,020	(+970)
柔道	13,250	(+650)
剣道	52,100	(+4,100)
キ	5,500	(0)
文芸	1,770	(-420)
音楽	30,000	(+5,000)
学	24,940	(+1,920)
音	4,770	(+800)
書	12,750	(+3,550)
繪	11,390	(+1,040)
演	26,000	(+1,620)
ブラバ	60,600	(+24,840)
写	30,000	—
新	40,950	(+1,450)
総額	754,370	

最近本校の話題を賑わしたものの言え、スポーツ関係を除いて応援団関係の中央紙は大々的に三面のトップで扱った。どのように扱わ

問題は何か

近藤 貢太郎

夏休みは
二十一日か
つ始まる。
本校の生徒
はこの休み

ラポート

先頭行なわれた旺文社主催の「ドイツ特派員・選考試験」に、本校の鈴木正三（三丁）金剛から応募者一万三千人中、第一次要否一千名、第二次要否五百名、第三次要需二百五十名とされた。七月四日、東京で開かれた最終選考会へ選ばれるべき五名は、旺文社特派員にもれたが、それは氏名だけとられた桶と堂一万円をのみげに五日帰校し、当の鈴木君こそもけに曰く「二万円もつた。」

活かしかにあるべきかを鋭く
いている。

(新聞部顧問)

H・R生徒会、果て「灰色
い」と思ふ。」とお話にな
うか、ひとえに、学校のよ
と生徒自体の自主性に
といふようだ。

今年十一月、能開発研究所
で行なわれる「全国一斉テ
問題になった青年期の人
我々の生活とどんな結び
つてくるのか、今後に注目し

近藤 貢太郎

「欠かない」一語は、ある要請者から新聞の読み方に対する批判を、
「同時に」の二語は、日々の生活に於いて、問題の本質、短
すの認識や判断の誤謬を
弱がかりは、しなか
たつか。かりに小
く扱われれば、氣に弱
めな、というのである。
新聞を毎日読まな
も、日々の生活に於いて、

夏休みは
二十一日か
つ始まる。
本校の生徒
はこの休み
を有効に過

注意する事柄に、必ず着目して、こつて体落
てしまふは、悪い。よゝうに休んで、
また起る病のノコウせにかか
つても現代病のノコウせにかか
る夏休日は随分落し穴がひいて
苦しむと言へる。我々は
苦しい休みをどうしても楽し
める様にしたい。夏みの心構
えをもつて一度考え、たまた計画
を立て加ふる様に、もう工夫し
なくてはならぬ。そして休みの
終わって休み中、鬱鬱然として
いひません、談笑した、ものだ。

れもの。夏休みのま、長い長
休みを平々凡々とし「何もしな
て過ごさるが爽にさ▼」それとも
休みを無事に過し終えたらつ
中には余りなく伸び伸びと過
す事故は計らずも忸づかい。
事象だけに事件性起さないま
表された。その事件性起さないま
もアツタは夏休みが終わったと
生活態度がおかしくなったと言
われる者出た▼これははきは
りと夏休みの落とし穴落ちたに類
定めてみてもいい。こんな年中
夏休み中におかしさを露わに
し毎年こんな生徒は出てくるだ
今年も出る可能性はた。我々バ

また、そのしるしを頭につけて、
 踊らされた。来たとき、詩を口ずかして、
 舞しちやうと多きがいはれ、海・
 山へハレヤのなに行くとする
 ところ、向つてカ月余の間の
 ことな。伊仲といふと毎日の
 が送れる。それに行ふたは、貧乏
 重たといふ。▼ところが、部
 の者を除くと本校教員は殆ど皆
 の者も有効に過してゐる。いは
 ない様である。いふ意味が終
 つてゐる。誰し合つてゐた
 所かと言つても、もう計画は
 した者もない様。我々はたゞ計
 画をもちひて工夫する。ここに

記念に残る美しい写真

佐藤写真館

カメラ部

T 一三二 六町

夏休みの成果を
良い備品で
あげましょう

キム
ム
ラ
ヤ

T 一、三六二

吉

カメラ

Opt Pen

カ
モ
ヤ

皇町 三三九・二、一五五

能代皇町 T 464

技術を誇る
唐津
写真